

## まちづくりミーティング要旨

1. 団体等の名称 中部学院大学教育学部
2. 日 時 令和7年12月5日（金） 16時00分～17時30分
3. 場 所 各務原市役所本庁舎 会議室5-1
4. 出席者 <参加団体>14名 <市>市長
5. テーマ ①各務原市の教育・保育等について  
②各務原市の過ごしやすさについて  
③各務原市の魅力発信について

### テーマ① 各務原市の教育・保育等について

【参加者】各務原市では、外国人市民の数が増えている現状があります。具体的な数字として、平成30年には2870人の1外国人市民が住んでいたのに対し、現在は合計4429人です。7年間の間に約2000人も増加があります。

私の出身地である美濃加茂市では多くの外国人市民が暮らしており、日本語学級や外国語を話せる教員がいる環境が当たり前で、保護者の保護者とのやり取りもスムーズに行われていた印象です。また、多文化を知ろうという目的のもと、給食や授業において外国文化を紹介する工夫があり、外国籍の子供が活躍できる場が多かったと感じています。その国の文化に触れ、簡単な挨拶などができるようになると、話すきっかけができるなど、外国籍の子どもの安心に繋がると考えます。外国籍の子どもに日本語を覚えてもらうばかりではなく、外国籍の子から学ぶという視点も大切だと思っています。

各務原市でも多文化共生推進政策が進められていますが、保育や教育の現場では、具体的にどのような取り組みが行われていますか。また、今後どのような取り組みをしていく予定でしょうか？

外国人市民が増えている各務原市でも言葉の理解、関わるきっかけ、多文化理解に繋がるよう、授業の一環で多文化に触れることができるように、外国籍の子どもに授業をしてもらったり、廊下の壁面構成の一つとして、他国の挨拶を書いて貼って置いたりなどの取り組みをしてはどうかと考えます。

【市長】外国人市民の皆さんは地域をつくる大切なパートナーだという認識を持っていますので、地域が一丸となって多文化共生社会を構築していくことは非常に重要だと思います。

各務原市では、令和5年の3月に羅針盤とし多文化共生推進プランを作成し、プランに基づいて様々な施策展開している状況です。

はじめに、保育現場あるいは教育現場での取組についてご紹介します。公立の保育所における多文化共生の取り組みについては、お子さんたちが異なる文化また価値観を理解して尊重し合う環境をつくることが重要と考えています。年に4回、各公立保育所に「KET（Kakamigahara English Teacher）を派遣し、あいさつ、ゲーム絵本、会話などの体験を通じて、多文化への興味関心を高める取り組みを行っています。そして園に通う外国籍のお子さんから、他の子どもたちが「みんなでベトナム語のおはようを言ってみよう」、「中国語で1から10の数を言ってみよう」、「運動会の際にはブラジルの国旗を作ってみよう」、「いろいろな国の歌を歌ってみよう」など、外国の文化、挨拶、国旗、歌などについて学ぶ機会も設けています。その他にも、給食のメニューでナムル（韓国料理）、ラタトゥイユ・ポトフ（フランス料理）など、調理員さんから外国の料理として子供たちに紹介をいただいているという状況です。

続いて、教育現場についてご紹介します。各務原市では国際理解を深めるための取り組みとして、小中学校にKETを派遣しています。各校の英語の授業で教師とKETとのチームティーチングを行うことで、児童生徒がグローバルな時代を生き抜いていくために必要なコミュニケーション能力を高める、国際理解を深めることができるようにしています。このKET配置事業の中では、ファンファンKETというイベントも行っています。これは児童生徒が自分の通う学校で複数のKETの先生方と触れ合うイベントで、内容は各学校が企画しています。多国籍のKETと児童生徒がゲームなどを通じて様々な文化に触れる機会としておりますので、KETの出身国英語を教えてくださいたいんですが、必ずしも英語圏のという先生ではありませんのでKETの先生の出身国の様子、日本に来た理由、将来の夢などのお話を直接聞いて、自分の将来について考えるきっかけ作りとしている学校もあります。

その他、各務原国際協会と連携をして、多文化共生を実感できるイベントとしてKIAフェスティバルまた文化共生料理講座などの交流イベントも実施して児童生徒を含む多くの方に参加をいただいています。

このように、引き続き、多文化共生や国際理解に対する意識を育む取り組みを進めて

いきたいと考えています。その中において、ご提案いただいた「外国籍の子どもに日本語を覚えてもらうばかりではなく、多国籍の子から学ぶ」という視点も非常に良いアイデアであると思いますので、今後、既に行っている事業も含めて、そういった視点を取り入れていきたいと思っています。

【参加者】私の住む岐阜市では、保育者の確保や定着を目的として、小学校奨学金返還支援制度や、就職準備金の貸付など、若い世代が経済的にも安心して働き始められるような仕組みが整えられています。各務原市では保育士就職フェアや現場研修など、現場を体験しながら保育の魅力を感じられる取り組みが行われていることを知りました。

私は保育者を目指す学生として、将来は各務原市で働きたいと考えております。その中で、若い世代が「働きたい」と思うだけでなく、「長く働きたい」と感じられる職場作りも大切だと考えております。若い世代の保育者が安心して働き続けられるよう、環境整備や魅力発信などの観点についてどのようにお考えをお持ちですか。また、今後どのような取り組みを進めていくか、という計画はありますか。

【市長】私は毎年、保育園、幼稚園、小学校、中学校、支援学校、全部の園を訪問しています。そうした中、先生方が本当に子供たちに真摯に向き合っていて対応していただいていることに感謝の言葉しかないと感じています。

今回、環境整備と魅力発信についてご提案をいただきました。

保育士さんの処遇改善については、全国的な問題だと考えています。保育士さんの賃金については国が中心となって対策を講じ、令和6年度には平成25年度と比較して保育士さんの給与は累計で約34%改善されました。さらにキャリアアップの仕組みとして、経験7年以上の中堅の先生職員の方には月額最大4万円の給与アップも実施されています。賃上げは着実に進んでいると思います。

奨学金の返還支援と保育士修学準備金の貸し付けについても言及がありましたけれども、岐阜市独自ではなく、それぞれ岐阜県、あるいは岐阜県社会福祉協議会が実施している制度ですので、各務原市も含む県内全ての市町村が対象になっています。

若い世代の保育士さんが安心して働き続けられるような取組としては、例えば、育児中の保育士さんの復職支援として、復帰の際、保育士のお子さんを希望する保育所へ優先的に入所させるということがあります。また、保育士さんが勤務時間中に保育以外の業務に集中する時間「コンタクトタイム」を確保することにより、残業や持ち帰り仕事ゼロを実現するなど、保育者、保育士の先生方が安心して働き続けられる環境

作りに努めているところです。

その他、保育士の負担軽減を目的としまして、ICT システム「コドモン」を導入して、今まで電話などで行っていた欠席連絡をアプリでできるようにし、紙で配布していたお便りやアンケート、保育記録などをデータ化することで、保育士と保護者の負担軽減を図るといった取り組みも進めています。今後もいろいろな角度から保育士さんの処遇改善、環境整備に努めていきたいと思っています。

魅力発信の方では、各務原市は毎年市内の大学さんと連携した学内就職説明会や、市内の高校・大学に通う学生さんと現役の保育士が交流をする「ワールドカフェ事業」を開催して、保育の魅力を発信するとともに、保育という仕事への理解を深めていただくきっかけとしています。

今年度はさらに、私立保育所等の経営者や園長先生を対象にしまして、魅力発信経営セミナーというものを開催いたしました。保育士不足が全国的な問題になっている中ですので、ここで働きたいと思える園でないと、優秀な人材が集まりにくい。「選ばれる園となるためにはどうしたらいいのか。」という視点の講演をしていただきました。参加者からは「非常に参考になった」、「できることからぜひ実施したい」といった声をいただきました。

今後も、「長く働きたい」と感じていただける職場作りに努めると同時に、魅力発信の取組も進めていくことで、保育者、保育所の先生の確保や定着を図っていきたいと考えています。

【参加者】私が住んでいる関市では、家庭の食育実践のための具体的な取り組みとして、まめなかな通信という食育通信があります。毎月様々なレシピや健康情報を掲載しており、家族がまめに過ごすことができるよう、毎日の食事作り、健康作りをコンセプトに市のホームページで公開されています。この通信以外にも食事バランスガイドの五つの区分の中で不足しがちな副菜や主菜のレシピが写真やイラスト付で掲載されています。こういったレシピを市が積極的に発信することで、健康的な食生活の促進もちろん、住んでいる地域への愛着を持つことや実際に作ってみたいという意欲がわく効果があると感じています。

各務原市のホームページにも減塩職や各務原にんじんに関するレシピが掲載されているものを拝見しました。しかし、同時に、あまり周知されていない印象を受けました。完成写真が少ないため、完成像を想像しにくく、実践のハードルも高くなってい

る面があるように感じました。岐阜県や農林水産省が出しているレシピもあります  
が、市が独自に市民に向けて積極的に発信していくことで、作る意欲や健康増進の魅  
力がより向上していくのではないのでしょうか？

そこで、家庭での食育に着目し、親子で一緒に作ることができるレシピを掲載した毎  
日の食育通信等の発信を提案したいと思います。

【市長】各務原の特産というと人参ですが、11月24日を各務原にんじんの日と定  
めていて、学校給食ににんじんをちょっと多めに使う献立があります。もう一つは  
「生彩（せいさい）弁当」というにんじん弁当を、弁当をマックスバリュ東海さんに  
販売をしていただいています。本当に食というのは大事だなと改めて感じるところが  
多いと思います。

また小学生を対象にものづくり見学事業をやっていますが、その中で、航空機関連の  
産業、自動車関連の産業、また食生活、といったところで、カルビーさんにもご協力  
をいただいて、工場見学をしていただきながら、素揚げのポテトチップスに食塩を入  
れて、「自分たちがいつも買って食べていただいているものは、どれくらい食塩が入っ  
ているのでしょうか。」といった食育をやっていたこともあります。いろいろな形  
で、にんじんの生産者の方はもとより、企業さんにもご協力をいただいているところ  
であります。

現在、高齢化社会が進行している中で、健康寿命の延伸が国民的な課題になってきて  
いると思います。平均寿命だけのお話をすると、岐阜県内の市町村の中で、各務原市  
は男性が1位、女性が3位ということで、平均寿命は比較的高いです。高齢化率も今  
28%ぐらいですので、県内の市町村と比べると若干低い方ですが、その中でも健康に  
長生きをしていただくことが重要ということから、この生涯を通じた食育を推進する  
というのは本当に重要と考えています。市では健康づくり推進課を中心に、こども家  
庭センター、こども政策課、学校教育課、そして何ととっても食というと農政課、も  
う一つにはいきいき楽習課といった課が、縦割りではなく横の繋がりを持って連携を  
して食育推進に取り組んでいます。例えば、働き世代に対しては市内企業への専門職  
が直接出向き生活習慣病予防の講話を開催しています。また高齢世代に対してはフレ  
イル予防料理教室を開催するなど、直接ターゲット層に伝える啓発活動を行っていま  
す。また無関心の方々へのアプローチとしては、市内商業店舗などと連携した啓発  
POPのを掲示。またイベントにおける情報発信などを通じて、健康増進のための環境  
作りに取り組んでいる、そういった状況です。今回ご提案をいただいた、親子で料理  
をすることは、食に対して非常に興味関心を高く持っていただける、非常に大切な取  
組であると考えます。



親さん世代に対しては、乳幼児健診の集団指導、また個別相談の他、ライフデザインセンターで実施をしている生涯学習講座の中で、親子の料理教室を実施するなど、食育の大切さをお伝えしています。

レシピ本については、親子で料理をするきっかけ作りとして各務原にんじん弁当の販売イベント、小学生を対象とした、にんじんの収穫体験、にんじんの選果場の見学の機会などを通じて配布をしています。その他には、食品ロス削減の観点から規格外の野菜を使用した料理教室の開催、また、フードドライブも行っているところです。今後も、やはり生涯を通じた食育を推進することで、健康寿命の延伸に繋げていきたいというふうに思います。

【参加者】10月にさくらを訪問させていただき、各務原市教育支援センターあすなろは学校復帰を目的としているため、カリキュラムが決まっており、休みの連絡が必要な施設だと教えていただきました。一方さくらでは、まず家を出ること、子供の居場所の提供を目的としているため、休みの連絡は必要なく。いつ何時でも自由に来て良い施設だと知りました。この目的の違いによって、さくらの方が子どもにとって通いやすいため、人数に大きく差が出ていることも教えていただきました。私は外に出ることができるようになったり、さくらで自分らしく過ごせるようになったりした後には、さらに一歩前に進むことができるように、さくらでも子どもに合わせてルールや時間を設けてはどうかと考えます。

さくらから子どもたちがさらに毎日一歩進むためには、どのような取り組みや工夫が必要だとお考えでしょうか？また、不登校になる理由の多くが、みんなと同じことをすることが困難、決められた時間で行動することが困難などといった、学校不適應が原因だと教えていただきました。私は保育所と小学校のギャップを軽減することができるように、例えば保育所でも小学校を意識して時間内に食べることができるように、子どもに合わせて給食の量を調節する。活動の見通しを持つことができるように終わりの時間を決めるなどの工夫があるとよいのではないかと考えます。小1プロブレムに代表されるような学校不適應による不登校の子どもを少しでも減らしていくために、保育所ではどのような取り組みが必要だとお考えですか。

【市長】市では、全国的に増加傾向にある不登校児童生徒さんの多様なニーズに対応するため、3種類の教育支援センターを4ヶ所に設置をしています。それぞれ特色のある支援を行っている状況です。さくらについては、那加と前宮の2ヶ所で運営しています。家庭から一歩踏み出すことを重視する、子どもたちが自らの意思で好きなこ

と・やってみたいことを選択して自分のペースで活動していくことで自立を促しているのが、「さくら」です。また、異なる年齢の集団の中で学習やスポーツ、創作活動などを通して、集団生活への適用とコミュニケーション能力の育成を支援をしているのが、「あすなろ教室」です。そして、学びの部屋では学習内容、また時間配分をお子さん自身が決めることで、学習習慣を確立していくことを目指しています。ですので、さくらがあって、あすなろがあって、学校というこういう段階的なものを追っていくということではなく、それぞれが特色ある対策をしていますので、お子さんあるいは保護者の方が、ここへと選んでいただくような状況で支援をしているところです。各センターにはそれぞれ特色がありまして、全く別のところですが、各機関連携はしている状況になります。こういったところでも、お子さん本人さんや保護者の願いを大切にしながら支援をしていきたいと思っています。さくらでは、自分が決めたことを自分のペースで行うことを大切にしていますので、今のところルールや時間を設定するという考えはないんですが、今後も全ての教育支援センターにおいては、子どもたちが社会と繋がり、自己肯定感、また自己の可能性に気づいていただく、社会的自立を実現できるようなそういった支援をしていきたいと思っています。また中央図書館の4階には教育センター「すてっぷ」を設置しておりますが、保護者の皆さんの気持ちに寄り添う支援も行っていますので同じ境遇の方同士が情報共有を行ったり、専門家の方が様々な相談に応じることで、悩みや不安を解消できる場を提供しています。

こちらについては全て、学校に通いながら行っている子もいます。状況に応じて、今の3つ、3つの4ヶ所を、活用いただいているという方もいらっしゃいます。

次に、保育所と小学校のギャップについてですが、これを軽減することは非常に大切なことだと考えています。各務原市では、「幼保小の架け橋プログラム」として教育課程の参考となる「スタートカリキュラム」と「アプローチカリキュラム」を作成しています。「アプローチカリキュラム」では、年長の年を、狙い別にさらに五つの時期に分けて、「自ら学ぶ力」、「人と関わる力」、「生活する力」の三つの視点、また子どもへの配慮などの側面から、小学校入学までに身につけておいてほしい内容をまとめています。そして「スタートカリキュラム」では、幼保や家庭との連携として、4月5月に新入学児童に対して学校が取り組むべき事項を紹介しています。幼保小連携の具体的な取り組みとしましては、5月から7月にかけて、幼保を小学校に招いて授業参加を行います。学校教育を理解していただくのと同時に、園所、幼稚園と保育所での支援について考えていただいています。また小学校は保育園、幼稚園での支援を伺い、その後の指導の参考としています。夏には夏季教員職員研修として、低学年の担任の先生などが保育園幼稚園で子どもさんと接し方を学んで、夏休み明けに指導に生かす

ようにしています。

そして、「チューリップ大作戦」で、家庭での取り組みとして、児童が就学前に生活リズム、また身の回りの準備を整えること、あいさつ、自分のことを話することができるように、親子で取り組んでいただけるような支援もしています。来年からは「もうすぐ1年生チャレンジ」と名前を変えさせていただく予定です。今後も引き続き、幼保小と連携を図っていきながら、各家庭でのご協力をいただいて、小1プロブレムなどの問題が起きないように取り組んでいきたいと思いますので、またいろいろなご提案をいただければと思います。

## テーマ② 各務原の過ごしやすさについて

【参加者】近年、家庭の形や働き方が多様化し、保護者の保育ニーズも様々になっています。岐阜市はそうした変化に柔軟に対応するため、病児病後児保育の拡充や一時預かり、延長保育の時間延長など働き方に合わせて柔軟に利用できる保育サービスの充実が進められています。各務原市でも子育てがしやすいまちづくりが進められていますが、今後さらに多様な家庭が安心して子どもを預けられるような多様な保育サービスの充実が求められると感じます。

そこで各務市として、今後保護者の多様な働き方に対応するために、病児・病後児保育施設の増設や既存施設との連携強化、一時預かり、延長保育の時間拡大や柔軟な利用制度の導入といった施策をどのように進めていくお考えでしょうか？

【市長】病児保育、病後児保育というのも、やはり利用者の方はなくなることはないということで非常に重要なことだと思っております。各務原市は、病気あるいはその回復期にある通常保育が困難なお子さんを家庭で保育できないときには、お子さんを医師、看護師、保育士が連携して預かる保育園である病児病後児保育室を、東海中央病院さんの中に設置させていただいております。これは事前に利用登録が必要ですが、0歳から小学校6年生のお子さんまでが利用できます。「こあら」という名前の入ったチラシが、病児病後児保育室のチラシになりますけれども、これは市が協定を結んでいる自治体にある病児病後児保育室も利用することができますので、例えば各務原市の方であっても岐阜市、美濃加茂市、関市、美濃市、可児市、瑞穂市などなど、各務原市の周りのところであれば、設置しているところであれば、協定を結んでいますので、そういったところもご活用いただけるという状況は整っていると思います。



この病児保育についてですが、年齢そして発熱後の経過時間など一定の条件を満たす方を対象としておりますけれども、以前からこの預かり基準が厳しくて利用しにくいというそういった声もありました。そこで病児保育登録者に対してアンケートを実施して、また近隣自治体の預り基準も参考にしまして、この10月にその基準を見直しました。例えば、以前は発熱後24時間以上経過していることを条件としていましたが、これを12時間以上経過に緩和したなど。前日までにかかりつけ医等の医療機関を受診し診断が確定していることという条件も撤廃しました。当日の朝に東海中央病院さんで診察を受けることで利用可能としています。市内にも、病児病後児保育室はこの東海中央病院1施設でありますので、増設を求める声もあります。現在各務原市医師会を通じて市内の医療機関に病児病後児保育の設置について説明、また、意向調査を行うなど、増設に向けた検討を進めている状況です。

次に一時預かり事業についてですが、保護者の方が怪我病気などの商標や、リフレッシュ、里帰り出産などの利用で、お子さんを家庭で育児できない場合に、保育所等で一時的にお預かりをする制度で、保育所や認定こども園に通っていない児童さんが利用できます。市内では23の施設で実施をいただいておりますので、施設によって異なりますが、午前7時から午後7時30分までの間、お預かりしています。岐阜市ではおおむね7時から夕方7時までということですのでちょっと各務原市の方が時間的には長く預け入れられると思います。

アレルギーの有無、また既往歴でお子さんの発育状況などを確認するため、こちらも事前登録制となっています。登録から利用までには通常約1週間の時間がかかりますけれども、保護者の方の入院や怪我など、このまま急な預かりが必要な場合にありますので、そういった場合には速やかにご利用いただけるような柔軟な対応もしている状況です。

最後に延長保育事業についてですけれども、保育所などに通っている児童のうち保護者の方の就労の理由などで、在園時間が長くなる児童が利用対象となっています。保護者の方は保育所などを選択する際に希望する時間まで預かってもらえる園を選んでいただいているので、延長保育が必要な方には適宜対応をしているという状況です。保護者の方のニーズに答えられているのではないかと考えています。また来年度からは、保護者の方の就労要件などを問わず、時間単位で利用ができる「こども誰でも通園制度」が始まります。これは0歳6ヶ月から2歳までの、保育所などに通っていないお子さんが、月10時間を上限に利用することができます。各務原市では、まずは公立からということで、那加中央保育所と鵜沼西保育所で試行的に実施いたします。その後市内認定こども園にもお声がけをさせていただきたいなと思っています。

今後も、引き続き子育て当事者の不安、孤独感、仕事との両立についての悩みが軽減されて、子育てに喜びや幸せを感じていただけるような、子育て家庭のニーズに応じた子育て支援サービスの充実を図っていきながら、わかりやすい情報提供に努めていきたいというふうに思いますので、また様々なアイデアをいただければと思います。

【参加者】私は高校に入学した際、地元である川島地域の人口が他の地域と比べて少ないことを知りました。那加の人口は 3 万 4681 人で、川島の人口は 1 万 11950 人です。

人口が定着しない理由の一つとして、交通の便が悪く、自家用車がないと移動手段が限られてしまうことが大きいと考えます。実際に那加などの地域では駅やバス停が多く、交通公共交通機関が整っているため、人が集まりやすいと考えます。私も実際に高校時代にふれあいバスを利用していましたが、授業時間に間に合うバスが 1 本しか出でおらず、大変不便に感じておりました。現在も川島から他の地域に行く際にバスの本数が少なく不便に感じることが多いです。また川島には観光地もいくつかあり、観光客が長い時間バスを待っている姿を見かけたことがあるため、より乗客するためにもバスの本数を増やしてみてもはどうでしょうか？川島の人は一宮で買い物を済ませてしまうことが多いのですが、バスの本数があることで、各務原市中心部へも行きやすくなり、経済効果も上がるのではと考えます。

どの地域でも暮らしやすいまちにしていくために、バスの本数を 1 時間に 1 本に増やしたり、川島、笠松のバスに乗り換えができるように時間を合わせることを提案したいと思います。

また川島に一度住むと長く続く住み続ける人が多く、人との繋がりが強く、温かい街だという魅力を感じています。川島の魅力を伝えるためにどのような取り組みをしたらよいとお考えでしょうか。

【市長】ふれあいバスについては、買い物や通院などの日常の移動手段として、高齢者を中心に広く市民の方に利用いただいています。利用実績や懇談会での地域の皆様のご意見を踏まえて、改正を行いながら運行しています。そのため、ゴールがなかなか見えにくいのですが、いろいろな課題を教えていただく、ご提言をいただくことにより、毎年何かを変えている状況です。

近年は、全国的に利用者が減少していることに加え、運転手不足の問題があります。市内でも路線バスの減便・廃止が続いています。岐阜バスさんの笠松川島線も令和 7

年 10 月 1 日を持って廃止となりました。これ以上運行時間や運行本数を増やすのはちょっと難しいところだと思います。バス会社やタクシー会社も、運転手の募集に力を入れています。働き方改革も影響し、今後も厳しい採用状況が続くように思います。

こうした中、ふれあいバスの川島線については、令和 7 年の 4 月に各務原市役所前駅発着の循環として、右回り左回り各 1 便を増便したところです。加えて、ふれあいバスの補完をする形で、令和 6 年の 10 月に、デマンド型の乗合交通「チョイソコかわしま」も運行を開始いたしました。公共交通マップを見ていただきますと、最終ページにあります。会員登録をしなければいけないんですけども普段の生活圏域のところまで行けば、そこから限られたエリアにはなりますけれども、タクシーで、この金額で乗っていただけるという公共サービスになります。今回のチョイソコかわしまは、東米野でチョイソコカラタンへ乗り継いで、笠松町あるいは岐阜市の一部地域へも行くことができます。各務原市の中では、他地域に行けるチョイソコと連携ができているのは、実はこのチョイソコかわしまだけです。ちょっと乗り継がなければいけません。例えば笠松にある松波病院まで行けるということで、いろいろなことが活用できていると思っています。

先ほど川島は人口が少ないというお話があったのですが、合併したときに 8000 人ぐらいだったのが、現在は 1 万 2000 人になっています。各務原市には那加、蘇原、稲羽、川島、鵜沼という地区がありますが、実は人口が増えているのは川島のみ。あとは全部減っています。全国的に人口減少という大きな課題があるんですが、やはりおっしゃるように、川島にはさまざまな魅力があるので、そこに移り住んで来ていただいている方々というのが非常に多いかと思います。小学校中学校の児童生徒数について、各務原市内で一番多いのは那加第一小学校です。続いて蘇原第一小学校です。次いで川島小学校です。ですが、那加第一はまだしばらく増えるんですけども、おそろいずれ頭うちになります。川島はまだこれから人口が流入してきますので、おそらく市内で一番になる日もそんなに遠くないんじゃないかと思います。参考までに那加第一小学校は県内で 2 番目のマンモス校で、来年か再来年には県内で一番のマンモス校になると言われていますが、そこを抜く勢いがあるのが川島というところです。自然が豊かであったり、エーザイを始めとした企業の集積、また河川環境楽園ですね。全国の国営公園の中でも河川環境楽園はずば抜けて集客力がある公園です。

また、川島の川まつり、燦々夏祭りであったり、民間の方がやっていたりしている河跡湖公園でのマルシェなど、民間の方々の力添えもいただいて、そういったところが盛り上がってきているのではないかと思います。

ぜひ若い皆さんも、こういったイベントに参加をしていただいて、さらにこの川島各務原というものを盛り上げていただきたいなと思います。市も、さまざまなイベントをやっておりますが、こんなイベント企画があったらもっと楽しいかもしれないというようなことも、ご提案をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

【参加者】各務の話にはふれあいバスがあり、車の免許証を取る前などは大変よく利用させていただいておりました。駅やイオンなど人がよく利用する場所の店は多いイメージですが尾崎などではあまりバスがないイメージがあります。私の祖父祖母は尾崎に住んでいるのですか高齢ということもあり、一定まで行く際も苦労しているようです。バスの進路をふさぐバスの進路を多くすることや本数を増やすなど対策は多くあると考えますが、人員不足や利用者がいない場所にわざわざバス停を増やすことの難しさがあることも理解しています。

そうした中で、どのように高齢者でも過ごしやすいまちづくりにしていくかという案はありますでしょうか。

【市長】先ほども少し触れましたが、このふれあいバスの運行時間または本数を増やすというのは、やはり先ほどの運転手不足というのが一番の課題で、これはなかなか難しいと思います。

そういった中ですが、尾崎団地については、令和5年の10月にふれあいバス那加線のバスを増便して、ダイヤをパターン化しています。右回り、左回りそれぞれ1時間に1便運行している地域ということで、ふれあいバスの路線がある中でも充実している地域です。また民間のバスである、岐阜バスの尾崎団地線は岐阜駅、岐阜総合医療センターにもアクセスしていただいていますので、昼間の時間帯も、こちらも1時間に1便は運行されているという状況です。

また高齢者の移動手段として、自治会さんなど地域が主体となって、介護予防教室、また健康作りの活動に参加するなどのために定期的な交通手段を確保する取り組みに対して、補助を出しています。これは介護予防の活動を実施する場所への移動の他、買い物や通院など日常生活の移動を支援するものでありますので、ふれあいバスの補完をする位置づけと捉えています。

運行のルートについては地域のニーズに合わせて設定をしていただくことができるというところです。自治会さんや地域の社会福祉協議会に、こういったことで困っているよという話があれば、自治体さんの負担も一部ありますけれども、こういった補助も活用できるようになっています。

これらの公共交通手段を維持するということ、地域の力を生かした支援をしていくということ、そういったところで高齢者の方々もやはり一歩でも外に出ていただいて、自分の健康は自分でしっかり作り上げようという認識を持っていただけるよう、今後も取り組んでいきたいなと思います。

高齢者の健康作りについては、以前からのフレイル予防というものに注力をしています。特に各務原では数年前からフレイルウォーキングというアプリを入れています。当初は、2ヶ月間で目標歩数を達成すると素敵な賞品が届きますよ、だったんですが、参加者数が多くなりすぎてしまったので、最近は抽選で数限定にはなるんですけども、抽選に漏れた方も「自分の歩くきっかけができた」とおっしゃっていただいていますので、そういった点では一定の効果は出ているように思います。

そちらも昨年度までは65歳以上の方が参加対象だったんですが、やはり若いうちから健康に気をつけていただこうということで、今年度からは、介護保険の支払いが始まる40歳からを対象にいたしました。ぜひ皆さんも、若いのでまだまだ大丈夫だと思いますが、健康にはくれぐれもご留意いただきたいと思います。

【参加者】私は毎週水曜日に開かれている日本語教室にボランティアで参加をしたことがあります。一緒に勉強している中で、「バスの乗り方がわからないから、この前各務原市から岐阜駅まで自転車で行ったんだ。今度、バスの乗り方がわかる友達JRから乗り方を教えてもらうよ。」と言っている方がいました。日本のバスの乗り方は外国人にとって大変難しく、その方以外にも乗り方がわからないという友達がいるとの情報もありました。各務原市は外国人が多く住まわれていると思うため、外国人にもわかるバスの乗り方のチラシを作成、配布することを提案したいと思います。またバスの乗り方の他にも、外国人が生活の中で困らないようにするための工夫はお考えでしょうか？

【市長】本当に多国籍の方々が多い中でこういったお困りごととも出てくると思います。そういった観点からいいご提案だなというふうに感じました。

各務原市では4,000名を超える外国人の方々が生活をしております。市では外国人の方の生活をサポートするため、産業文化センターの6階の国際交流サロンに国際交流職員を3名配置しています。この国際交流員については、英語ポルトガル語、ベトナム語の通訳として外国人の方の相談に対応しているという状況です。市役所の市民課あるいは医療、子育てなどの窓口での手続きについては、22の言語に対応する電話通訳を導入していますので、日本語でのコミュニケーションが難しい場合、電話通



訳を利用しながら対応しているという状況です。また外国人の方が転入されたときには、多言語版生活ハンドブックを配布し、さらに知りたいことや困り事などがあれば国際交流サロンに案内して、生活全般のオリエンテーションを受けていただきます。ご提案いただいているバスの乗り方のチラシ作成配布については、現在対応できていない状況ですが、今後、国際交流サロンでのオリエンテーションでも、必要に応じてこちらは案内していきたいと思います。

市では言語の壁を低減して、誰もが安全に安心して暮らしていただけるよう、様々な取組を行っていますけれども、もし困っている外国の方をお見かけした後であれば、ぜひ皆さんも温かいお声がけをしていただきたいなと思います。

外国籍の方も、今は 22 の言語と言いましたけれども、まだまだ国数も増えていく可能性がありますので、各務原市に住んでいれば言葉の壁というものも感じず生活できると感じていただけるような取組をしていきたいと思います。

【参加者】私は那加駅の北側に改札があると便利だなと思います。朝の通学時間には多くの方が降りるため、歩道橋が人で溢れます。その際、お年寄りの方や小さいお子さんがその場面にいると転倒や怪我につながる可能性があると考えます。北側に改札ができることで、みんなが安全に過ごせると思いますが、いかがでしょうか。

【市長】公共交通といった観点から、駅の利用者数は新鵜沼が一番多く、その次に多いのが那加の辺りなので、駅を使われる方々の環境整備というのは非常に重要なところかなというふうに考えています。

そこで各務原市では、平成 26 年度に策定をした新那加駅周辺地区バリアフリー基本構想に基づいて、名鉄新那加駅、JR 那加駅の周辺地区のインフラ整備を進めてきました。主な事業としては平成 27 年度に、当初はなかった JR 那加駅南の公衆トイレを整備しました。また平成 30 年度には新那加駅自由通路のバリアフリー化のために、エレベーターを設置しました。令和 3 年度、5 年度にそれぞれ新那加駅の南口の駅前広場を整備して、送迎車の利用者が安全に乗り降りできるようなそういった利便性の向上、安全安心の確保にも努めてきているそういった状況です。

ご提案いただいた JR 那加駅の北側の改札についてですが、ご存知の通り、南側にしか改札というものがありません。線路の北側にお住まいの方は、南北の地下道を抜けたり、また東亜町会館のほうからまわっていただくということで、ちょっとご不便を感じているところが多いかなと思います。また JR 那加駅というのはホームが南北に分かれているので、鵜沼方面に乗車の方は歩道橋を渡ることが必要であるということ

から、駅北側に改札があると、その問題も解消されるとは考えています。

以前から地元の自治会さんなどからも要望が上がってきており、これまでに JR と何度も協議しましたが、ホームのスペースの構造上の問題、また改札の設置は困難であるというそういった問題から、ちょっと改札は難しいというご返答をいただいているのが現状です。

現在のホームの外側に改札を設けるという案も考えられますが、すぐ北側の道路が地域の幹線道路なので、十分な道路幅を設けること、また急なカーブの区間とならないような構造にする必要があるということあるというところで、そのために改札スペースを道路上に設けた場合、狭くなった分の用地を広範囲にわたって確保する必要がありますので、沿線にはご存知の通り建物も多く存在しますので、用地の確保が難しいと考えます。

以上のことから駅北側への改札設置は難しい状況ですが、今後も皆さんが安全に安心してこの駅が利用できるような対策も講じていきたいというふうに思いますので、必要に応じて JR の方には安全管理のお願いを続けていきたいと思います。

### テーマ③ 各務原市の魅力発信、魅力発信について

【参加者】私は小学校、中学校、大学と常に各務原市で過ごしてきました。生まれ育ったこの街が大好きで、これからも住み続けたいと思っています。実際各務原市は、住み続けたい街ランキングで、1 位になるほど住んでいる人の満足度が高い街です。一方で、住んでみたい街ランキングでは順位が少し下がってしまう現状があります。そこで私は見た目や雰囲気で惹かれるおしゃれな場所作りを提案します。

若者は住みやすさだけでなく、雰囲気や楽しさでまちを選びます。例えば、各務原市は空き家が多いイメージがあります。空き店舗をリノベーションし、カフェや古着や雑貨店を作ることや、公園や川沿いでキッチンカーイベントを開催するなど、休日に行きたくなる、写真を撮りたくなるような場所が増えると、外からも注目されると思います、いかがでしょうか。

【市長】ぜひ、ずっと各務原市に住み続けていただきたいと思います。

市では、例えば那加地区になりますが、平成 26 年度から始まったこれマーケット日和を発端として、学びの森、また市民公園周辺では、民間事業者が主体となった様々なイベントが多く開催されるようになって、休日になりますと楽しいエリアというイ

メージが定着しつつあると思います。市販の日帰りガイドブックの中で「学びの森」、「市民公園」、「カカミガハラパークブリッジ」と、パターゴルフ場の南にできた「わたしのパーク」がトップに近いところで紹介され、多くの方が来ていただいていると思います。

またこの地区は、新境川沿いですので桜並木のほか、学びの森のイチョウ並木の紅葉やイルミネーションなど、四季の移ろいが感じられる写真映えスポットが点在しているエリアだと思います。

そこで市では、令和 6 年度から、学びの森と市民公園周辺の賑わいを空き店舗が目立ち始めた周辺へ波及させることを目的とした、歩きたくなるまちづくり、「まちなかウォーカブル推進事業 那加 from Park 構想」というものに力を入れています。今までですと、どちらかというと学びの森があって市民公園があってここでのイベントで終結していましたが、その後に、カカミガハラパークブリッジという民間の方が運営いただいている施設ができました。ここができることによって、点と点であったものが、このあたりが面で活性化をしてきた。さらに、先ほどの那加駅周辺の方に、昔は商店街があったんですね。映画館があったり、すごい賑わいがあったんですけども、ここ数年は賑わいがちょっと寂しい状況であったところ、今の「学びの森」、「市民公園」、「パークブリッジ」からさらに那加駅の方まで歩いていただいて、その地域の魅力を感じていただきたいということを、「まちなかウォーカブル推進事業 那加 from Park 構想」ということで、取り組んできている状況です。

主な内容としては、空き家空き店舗を活用して開業する意向の方への「店舗開業支援補助金」の創設、また「公園のリノベーション」、「公共空間の活用方法の検討」、「情報発信」などを進めています。魅力的な店舗が増えてイベントが誘致されることで、学びの森と市民公園だけでなく、その周辺の商店街まで含めたエリアが日常的に賑わって、行ってみたいおしゃれなまちとして注目されることを目指しています。

昨年度には、東亜町会館のカフェと絵画教室に加えて、古民家風の店内でイートインできるパン屋さんであったり、花が買える喫茶店、交流の場を兼ねた街の案内所の合計 5 件が開業に繋がっています。今年度も各務原市内でクラフトビールの醸造所に飲食スペースを併設したお店、まちに関わりたいと考える人の受け皿となる宿泊所を兼ねたゲストハウス、おしゃれな雑貨店などが新たにオープンする予定です。今もなお、開業したい・出店したいというご相談をいただいておりますので、そういった方々が実際に結びついていくと、そこには賑わいができて、というような状況になるかなと思います。

那加デザインミーティングも過去数回やってまいりました。各務原市民の方もご参加

をいただくんですが、20代から40代前半ぐらいまでの方々が集っていただいて、実際にこの那加のエリアを歩いていただく。そして、ここがもっとこういうふうになったらもっと賑わうんじゃないかなということをいろいろとお話していただいて、アイデアをいただくこともやっています。

若い世代の方々がまち作りを考えていただくというのは、その地域に間違いなく活力が見出されると思っています。皆さんも住んでいる地域は市内ではないかもしれませんが、自分の市、自分の住んでいるところが現状今どうなんだろうということをまた興味関心を持っていただくことによって、皆さんのアイデアはその地域地域の底上げに繋がっていくと思います。

【参加者】私は中学生時代に立志塾に参加させていただき、市内の企業経営者の方々と直接話すことができ、大変いい経験だったことを記憶しています。そこでお伺いしたいのですが、市内の高校生や大学生を対象に、同様に市内の企業や行政関係者の方々と直接交流意見交換ができるような場を設ける予定や構想はありますか。

高校や大学時代は進路選択や就職を考える時期であり、地域の大人と対話することで、より深く各務原市の魅力や課題を理解できるのではないかと思います。そのため、もし現在そうした取り組みがあれば内容を教えていただきたいと思います。また、今後新たに計画されているものがあれば、その展望についてもお聞かせを聞かせください。

【市長】立志塾などのキャリア教育というのは非常に重要なところかなというふうに考えています。お子さんたちが将来の進路選択に必要な資質や能力というものを身につけるためにも重要なものであってそこで得たものというのは、本市の将来の社会発展にも寄与する重要なものであるというふうに捉えています。そういった考えから、教育指導の方針と重点に、キャリア教育の目標を、社会的職業的自立に向けて必要な基盤となる資質能力を育てる、というものを掲げています。

多くのものに今職場体験の充実、あるいは児童生徒の自己の生き方や進路についての考えを継続的に積み重ね、振り返りながら自己のキャリア形成を図ることができる指導の工夫などを明示しています。

その中で立志塾は令和5年度から、夢チャレンジ事業というふうに形を変えました。夏季休業期間に、起業家、警察官あるいはダンサーなど、様々な講師をご招待しまして将来の夢について考える機会として実施しています。また中学校では学校外の方の講話というものを年に1回は開催をしていただいておりますし、市内にはいくつかの

団体さんがありますので、つい先日には各務原ロータリークラブさんが鵜沼中学校で講師を20数名手配をいただいて、各クラスで、税理士さんであったり警察官であったり消防士であったり非常にいろんな職業の方々をご案内いただいて、そこでも職業講話というものをさせていただきました。

ご提案のあった市内企業または行政関係者との交流意見交換の場というものは、地育地就といった観点からも各課で取り組みをいろいろと進めているところです。例えばですけれども、将来の進路、また就職についての知見を広げていただくために、市内企業を訪問する高校生、また大学生の企業見学バスツアー事業、普段見ることのできない工場を一般市民向けに開放しまして、実際の働く環境を体験するオープンファクトリー事業、今年は11社の方にご協力をいただき、実際に体験ができるものもありました。また介護福祉士そして保育士さんなどの資格取得を目指す高校生大学生と介護、また保育の現場に携わる職員が交流をしていただくことによって、今の抱える課題や現状について話す場も設けています。各務原市役所でも、市役所で働きたい、興味関心ある方に、市役所の仕事説明会「市職会」を開催をいたしますので、ぜひこちらにも一度足をお運びいただけるといいと思います。

また、各務原市、もの作りのまちということで非常に製造工業産業が盛んです。製造品出荷額が22年連続で岐阜県内では1位ということで、2位の大垣市を大幅に差をつけての1位ということから、やはり市内企業さんも有効求人倍率が今各務原市、直近の数字でいくと1.6。それだけ人材難というところもありますので、就職される側、就職を雇用される側、双方ともに応援していきたいということで、こういったことも取り組んでいます。この市職会もまた今後皆さんが就職活動をする際の良いヒントにもなろうかと思っておりますので、フリー参加ということから、ぜひまたお越しいただきたいと思っております。